

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191500034		
法人名	有限会社さくら苑		
事業所名	グループホームさくら苑		
所在地	佐賀県西松浦郡有田町仏ノ原甲1254-2		
自己評価作成日	平成29年6月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年6月23日	外部評価確定日	平成29年7月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然や四季を、居ながらにして感じられる様に、窓を大きく取り、明るく開放的に保てるような施設作りを心掛けた。また、周りをバルコニーで囲み、いつでも戸外に居るような雰囲気を味わえるような空間を設けている。緑あふれる中でゆったりと利用者様が過ごせるように、広い畑や花壇を確保している。天気の良い日に外へ出て野山の景色や日光浴を楽しんだり、畑や花壇の周りを散歩して季節を感じられる様にしている。草木や季節の野菜、果実、花など利用者様と育て、楽しめるような機会を作りたいと思っている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>開設10年目を迎えている事業所である。「気くばり」「目くばり」「心くばり」を合言葉に、「利用者一人ひとりのあるがままを大切に」、「心のこもった介護」の実現を目指している。利用者の心情を大事にしながらの「心にやさしい介護」は、安心感や満足感をもたらしている。職員の笑顔のある対応は、家族にとっても気軽に訪ねて行きやすい、また、何でも相談しやすい雰囲気を感ぜさせている。法人代表者は地元の区長でもあり、それだけに地域との結びつきも強い。</p> <p>事業所は、自然が豊かな山里のふもとにあり、四季の移り変わりを実感できる。畑や果樹園で収穫した野菜やぶどう、桃、柿など季節の果物が食卓にのぼることも多い。戸外にもよく出かけ、日常の散歩や買い物、注文の弁当を持っての花見や紅葉狩り、アジサイ観賞は利用者には喜ばれている。また、有田陶器市や有田雛祭りの見学は、この事業所ならではの行事である。</p> <p>健康・医療・安全面についても、家族の不安は少なく、重度化した場合や看取りに関する指針が備えられており、家族や医療機関との連携も常に保たれている。</p>
---

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気くばり」「目くばり」「心くばり」を基本とした事業所の理念と、職員が研修時に学んできた認知症介護の「あいうえお」を朝礼時に唱和している。また、勉強会等でその意味を常に確認して職員全員で共有している。	「気くばり」「目くばり」「心くばり」を基本とした事業所の理念と、職員が研修時に学んできた認知症介護の「あいうえお」を朝礼時に唱和している。また、勉強会等でその意味を常に確認して職員全員で共有している。	理念は、職員も常に目につく場所にすっきりと掲示されている。また、理念の唱和が単なる唱和だけに終わらないように、管理者やユニット主任が理念のあるべき姿を、具体的に助言や指導をしている。そのため、全職員が理念を常に意識、共有しながら毎日の支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表は地元での生活は長く、地区の区長をしており、職員も近隣の職員が多いので、地域とつながりのある暮らしをしている。また、地区の方を招待して地域交流イベントを開催したり、地域のボランティアの方が毎月訪問され交流している。	代表は地元での生活は長く、地区の区長をしており、職員も近隣の職員が多いので、地域とつながりのある暮らしをしている。また、地区の方を招待して地域交流イベントを開催したり、地域のボランティアの方が毎月訪問され交流している。	地域の清掃作業に参加したり、初めての試みでもあった小学生対象の認知症サポーター講座を開くなど、地域と積極的に関わっている。回覧板や地域住民でもある職員から、地域の生の情報を得ることも多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座では、キャラバンメイトを務め、小学校や老人会等で認知症の方の理解や対応の仕方などを伝える等、地域の方たちと一緒に認知症の人を支える取り組みをしている。	認知症サポーター養成講座では、キャラバンメイトを務め、小学校や老人会等で認知症の方の理解や対応の仕方などを伝える等、地域の方たちと一緒に認知症の人を支える取り組みをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地区の老人会長、区長、民生委員、町の職員など幅広い立場の人に参加してもらい2ヶ月に1回開催している。ホームの活動や取り組み、ヒヤリハット等を報告し、地域での事業所としての関わり方などを話し合い、サービスの向上に活かしている。	家族や地区の老人会長、区長、民生委員、町の職員など幅広い立場の人に参加してもらい2ヶ月に1回開催している。ホームの活動や取り組み、ヒヤリハット等を報告し、地域での事業所としての関わり方などを話し合い、サービスの向上に活かしている。	単に運営状況や活動内容の実情、ヒヤリハット等の報告だけに終わることなく、活発な意見交換がおこなわれていることが会議録からもうかがえる。地域との交流の持ち方、入浴介助の具体例、診療内科での受診、感染症対策と勤務体制の関係、その他幅広い意見が出され、運営にも活かされている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の担当者や包括支援センターとは、電話やメール等で連絡を密にとり、互いに連携しながら運営に取り組んでいる。また、困難な事例や緊急の受け入れ時には相談できる協力関係を築けている。	町の担当者や包括支援センターとは、電話やメール等で連絡を密にとり、互いに連携しながら運営に取り組んでいる。また、困難な事例や緊急の受け入れ時には相談できる協力関係を築けている。	行政とは常に連絡や相談を取り合っている。急遽の入居相談、成年後見人制度に関すること、身体障害のある方の相談、事業所が現在抱えている課題、介護保険改正に伴う最新の情報など、行政の力を借りることも多い。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	包括支援センター職員を講師に招いた社内研修会を実施して、基準や法令、禁止行為を学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は、玄関の施錠はせず、職員がさりげなく見守り、利用者様が自由で穏やかに過ごせるように支援している。	包括支援センター職員を講師に招いた社内研修会を実施して、基準や法令、禁止行為を学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は、玄関の施錠はせず、職員がさりげなく見守り、利用者様が自由で穏やかに過ごせるように支援している。	全職員が身体拘束をしない支援についての意識が高く、それだけ研修を積み重ねている。言葉による拘束も無いように心がけている。日中は玄関からの出入りは自由である。センサーの活用や一緒に外出して見守っている。入居時に重要事項の一つとして、身体拘束、抑制の廃止について説明が行われ、家族の理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加したり、包括支援センター職員を講師に招いた社内研修会を実施して、些細な事でも虐待を見逃す事がないように注意している。また、言葉使いや接遇は職員同士で常に注意して虐待の防止に努めている。	外部研修に参加したり、包括支援センター職員を講師に招いた社内研修会を実施して、些細な事でも虐待を見逃す事がないように注意している。また、言葉使いや接遇は職員同士で常に注意して虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の状況や想いを常に把握し、関係者と話し合いながら成年後見人や安心サポート活用の支援を行っている。説明会に出席したり、支援を通じて学ぶ機会を持ち、必要に応じた支援に取り組んでいる。	利用者様の状況や想いを常に把握し、関係者と話し合いながら成年後見人や安心サポート活用の支援を行っている。説明会に出席したり、支援を通じて学ぶ機会を持ち、必要に応じた支援に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、または改定時には、利用者様と家族には十分な話し合いのもと、納得された上で、契約、解約を行っている。また、疑問、質問などあるときには、いつでも相談できる事を伝え、契約書や事業所に相談窓口、担当者を明記している。	契約時、または改定時には、利用者様と家族には十分な話し合いのもと、納得された上で、契約、解約を行っている。また、疑問、質問などあるときには、いつでも相談できる事を伝え、契約書や事業所に相談窓口、担当者を明記している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の声には、些細な事でも耳を傾け、相談しやすい環境作りに努めている、介護相談員を受け入れたり、玄関にはご意見箱を設置している。面会時には支援の状況を報告し、定期的に家族会や家族カンファレンス、家族参加の行事を行い、意見や要望を表せる機会を作っている。	利用者様や家族の声には、些細な事でも耳を傾け、相談しやすい環境作りに努めている、介護相談員を受け入れたり、玄関にはご意見箱を設置している。面会時には支援の状況を報告し、定期的に家族会や家族カンファレンス、家族参加の行事を行い、意見や要望を表せる機会を作っている。	利用者の一番の代弁者は家族であることを踏まえている。家族が見えた時には笑顔で気軽に声をかけ、気がかりなこと、意見や希望、相談を気軽に職員に伝えられるように配慮している。あらゆる機会を通して、声なき声に耳を傾けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、正社員会議・各ユニット会議を開催し、代表者と管理者は同席して運営や業務に関して全員の意見を聴く様にしている。意見や提案を聞く機会を設けている。また、個人面談を行うなど意見を出しやすい環境にも配慮している。	毎月、正社員会議・各ユニット会議を開催し、代表者と管理者は同席して運営や業務に関して全員の意見を聴く様にしている。意見や提案を聞く機会を設けている。また、個人面談を行うなど意見を出しやすい環境にも配慮している。	毎日のミーティングや定例会議で職員が自由に意見を言える雰囲気を作られている。オーナーも毎月の会議に出席して、現場の職員の意見を聞き、運営に反映させる努力をしている。勤務表に関すること、休憩場所の確保、寝つけない方への支援、夜間緊急時の応援体制など運営に活かされている事例も多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、定期的に職員の個人面談を行い、給与、労働時間、職場環境・条件などを話し合う機会を設け、個々にあった労働条件で勤務できるように配慮している。	代表者は、定期的に職員の個人面談を行い、給与、労働時間、職場環境・条件などを話し合う機会を設け、個々にあった労働条件で勤務できるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修会では、外部に講師を依頼する等必要に応じた勉強会を実施している。また、能力に合った外部研修会への参加を促したり、研修や資格試験の時は勤務時間の調整をしたり、勉強会を開くなど環境整備に努めている。	毎月の社内研修会では、外部に講師を依頼する等必要に応じた勉強会を実施している。また、能力に合った外部研修会への参加を促したり、研修や資格試験の時は勤務時間の調整をしたり、勉強会を開くなど環境整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者とは、定期的に地域密着サービス連携会議を開き、意見交換会や勉強会、を行い交流の機会をつくっている。職員は自由に参加ができ、交流を深め、相互のサービスの質の向上に努めている。	地域の同業者とは、定期的に地域密着サービス連携会議を開き、意見交換会や勉強会、を行い交流の機会をつくっている。職員は自由に参加ができ、交流を深め、相互のサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>							
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中で、何よりも利用者様との話をする時間を大切にし、利用者様の気持ちにしっかりと耳を傾け共感するように努め、特に初期においては職員が利用者様に信頼して頂く関係づくりに努めている。	日々の生活の中で、何よりも利用者様との話をする時間を大切にし、利用者様の気持ちにしっかりと耳を傾け共感するように努め、特に初期においては職員が利用者様に信頼して頂く関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前には自宅や現在生活をされている場所で家族と話し合いの機会を持つようになっている。施設に預けられること等の不安や、家族関係など色々な要望に耳を傾け、安心して利用できるよう信頼関係作りにも努めている。	サービス開始前には自宅や現在生活をされている場所で家族と話し合いの機会を持つようになっている。施設に預けられること等の不安や、家族関係など色々な要望に耳を傾け、安心して利用できるよう信頼関係作りにも努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	色々な専門職の立場や意見から、本人や家族にとって何が必要かを話し合い、他のサービスの検討もしながら、入所だけにとらわれない対応に努めている。	色々な専門職の立場や意見から、本人や家族にとって何が必要かを話し合い、他のサービスの検討もしながら、入所だけにとらわれない対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と職員の信頼関係により、一つ屋根の下で本人を主体とした対等の立場で共に生活していく環境づくりに努めている。	本人と職員の信頼関係により、一つ屋根の下で本人を主体とした対等の立場で共に生活していく環境づくりに努めている。			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、担当者より毎月ホームでの様子をお伝えする便りを送っている。また、面会時や電話等で常に本人の状況を報や時には相談し協力を仰いだり、家族と外泊や外食を出来るように調整したり、共に支えていく関係を築いている。	家族には、担当者より毎月ホームでの様子をお伝えする便りを送っている。また、面会時や電話等で常に本人の状況を報や時には相談し協力を仰いだり、家族と外泊や外食を出来るように調整したり、共に支えていく関係を築いている。			

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の催しや法事などの出席、友人や知人の面会など、利用者様や家族の要望には出来るだけ応えるようにしている。また、毎月、家族にはホームでの様子をお伝えする便りを送り、行事などの参加の案内をしている。	家族の催しや法事などの出席、友人や知人の面会など、利用者様や家族の要望には出来るだけ応えるようにしている。また、毎月、家族にはホームでの様子をお伝えする便りを送り、行事などの参加の案内をしている。	家族以外にも、かつての知り合いや職場の同僚だった方の面会を支援している。絵手紙で便りを出す利用者もいる。地域がら、有田陶器市には毎年出かけている。希望で自宅がある地域など、本人ゆかりの所まで足を延ばすこともある。長年馴染んできた美容室に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、席やソファの位置、居室などの配慮や、対応を心がけている。また、目や耳が不自由な利用様でも孤立しないようなレクリエーション等の工夫をし、利用者同士が良い関係で関わり合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、席やソファの位置、居室などの配慮や、対応を心がけている。また、目や耳が不自由な利用様でも孤立しないようなレクリエーション等の工夫をし、利用者同士が良い関係で関わり合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、いつでも相談に応じられることを伝え、その後のサービスについても必要に応じて支援が出来るように取り組んでいる。また、長期入院になられた場合でもお見舞いに訪問し退院後の相談にも乗っている。	利用が終了しても、いつでも相談に応じられることを伝え、その後のサービスについても必要に応じて支援が出来るように取り組んでいる。また、長期入院になられた場合でもお見舞いに訪問し退院後の相談にも乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、利用者様の想いを汲み取ることに努め、職員の自己満足にならない様に、本人の意向を大切にしたいケアプラン作りに努めている。希望を表現しにくい利用者様は、これまでの生活歴や家族から話を聞くなどして、より本人本位となるような支援に努めている。	日々の関わりの中で、利用者様の想いを汲み取ることに努め、職員の自己満足にならない様に、本人の意向を大切にしたいケアプラン作りに努めている。希望を表現しにくい利用者様は、これまでの生活歴や家族から話を聞くなどして、より本人本位となるような支援に努めている。	入居にあたっての諸情報と生活に関する意向、入居後の日々のかかわりの中で細やかに把握に努めている。大声、つぶやき、表情、行動などからも、言葉にしやすい思いを推し量っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人や家族、関係者より話を聞き、生活歴、生活環境の把握に努めている。また、ケース会議などで職員全体で把握し、その人らしく暮らし続けるための支援に努めている。	利用者様本人や家族、関係者より話を聞き、生活歴、生活環境の把握に努めている。また、ケース会議などで職員全体で把握し、その人らしく暮らし続けるための支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ラジオ体操・レクリエーション・入浴等日々の関わりを通じて、心身機能の状態の変化を把握し、自律を促す援助方法を話合っている。また、一日の過ごし方の中から精神状態の変化を把握して不安を解消できるように努めている。	ラジオ体操・レクリエーション・入浴等日々の関わりを通じて、心身機能の状態の変化を把握し、自律を促す援助方法を話合っている。また、一日の過ごし方の中から精神状態の変化を把握して不安を解消できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケース会議では様々な立場から意見を出し合い、3ヶ月毎のモニタリングでは、本人や家族の話、時には主治医の意見を聞き、外来リハビリの支援を取り入れるなど、一人ひとりの個性に即した介護計画を作成している。また、状態に変化があれば、その都度話し合い計画の見直しをしている。	毎月のケース会議では様々な立場から意見を出し合い、3ヶ月毎のモニタリングでは、本人や家族の話、時には主治医の意見を聞き、外来リハビリの支援を取り入れるなど、一人ひとりの個性に即した介護計画を作成している。また、状態に変化があれば、その都度話し合い計画の見直しをしている。	利用者本人や家族、主治医等からの情報や気づきも集約したアセスメントであり、利用者一人ひとりがその人らしく暮らしていけるための計画である。職員全員が観察と気づきを共有し、具体的で、実現可能な計画が作成されている。計画の評価、見直しも臨機応変にきちんと行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画にそって、日々のケアや心身の状況を個別に記録し、職員全員で共有している。また、気づきや変化をを申し送りノートに記録し、支援の変更にも対応できるようにしている。	介護計画にそって、日々のケアや心身の状況を個別に記録し、職員全員で共有している。また、気づきや変化をを申し送りノートに記録し、支援の変更にも対応できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	両ユニット間の交流、隣接するデイサービスとの交流、地域やボランティアとの交流、または、ニーズに合わせた外部サービスを取り入れた支援にも柔軟に対応している。	両ユニット間の交流、隣接するデイサービスとの交流、地域やボランティアとの交流、または、ニーズに合わせた外部サービスを取り入れた支援にも柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出時などは予め下見を行い、時にはその担当者と協議して安全を確保できるか検討し、協力を得ながらその資源の中で本人の力で安全に楽しむことが出来るように支援している。	外出時などは予め下見を行い、時にはその担当者と協議して安全を確保できるか検討し、協力を得ながらその資源の中で本人の力で安全に楽しむことが出来るように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望される主治医への受診・往診は継続して行ける様にしている。適切な医療を受けられる様、受診時には担当の職員が健康状態を家族や医師に正確に伝え、必要時には一緒に同行し診断に立ち会う様に支援している。診察時間外でも緊急時には連絡が取れるように連携している。	希望される主治医への受診・往診は継続して行ける様にしている。適切な医療を受けられる様、受診時には担当の職員が健康状態を家族や医師に正確に伝え、必要時には一緒に同行し診断に立ち会う様に支援している。診察時間外でも緊急時には連絡が取れるように連携している。	利用者や家族が希望するかかりつけ医での受診である。受診にあたっては職員も同行、支援している。関係医療機関とは情報のやり取りや、話し合いを通して信頼関係が築かれている。歯科医には訪問往診をお願いしている。義歯に関する受診が多い。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員には常に利用者の状態や変化を伝え相談し、異常の早期に発見と対応出来るようにしている。また、適切な処置が受けられるよう看護師とは24時間オンコールで連携している。	看護職員には常に利用者の状態や変化を伝え相談し、異常の早期に発見と対応出来るようにしている。また、適切な処置が受けられるよう看護師とは24時間オンコールで連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や経過カンファレンス時には職員も家族と一緒に出席し、情報の交換、退院について話し合うようにしている。また、入院期間中は地域連携室と連絡を取り合い病状の経過や退院後の対応について話し合っている。	入院時や経過カンファレンス時には職員も家族と一緒に出席し、情報の交換、退院について話し合うようにしている。また、入院期間中は地域連携室と連絡を取り合い病状の経過や退院後の対応について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時には重度化、看取りに関する指針について説明し承諾を得ている。段階ごとに話し合う機会を設け意向を確認するようにしている。ご家族・主治医と十分に話し合い、本人と家族の意向をふまえ、看取りを希望された際には、安心して最期を迎えられるよう、関係者と連携しながら支援に取り組んでいる。	入所時には重度化、看取りに関する指針について説明し承諾を得ている。段階ごとに話し合う機会を設け意向を確認するようにしている。ご家族・主治医と十分に話し合い、本人と家族の意向をふまえ、看取りを希望された際には、安心して最期を迎えられるよう、関係者と連携しながら支援に取り組んでいる。	重要事項説明書にきちんと記載されており、利用者、家族と納得のいく話し合いがもたれている。看取りに関しては、考え方、家族の付添い対応、本人及び家族との意思確認の方法等が話し合われている。昨年、今年から最近にかけて数例の看取りがあり、その都度、主治医に意見を聞きながら、意思の確認が行われている。葬儀後に職員、利用者共々安らかな最期を見送っている。	



自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や、事故発生時などの対応を検討し、会議などで確認している。又、消防署より救急救命士の方に来て頂き、救急救命や心肺蘇生の講習会を開催し、全職員が定期的に訓練を行っている。	緊急時や、事故発生時などの対応を検討し、会議などで確認している。又、消防署より救急救命士の方に来て頂き、救急救命や心肺蘇生の講習会を開催し、全職員が定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いのもと、日中や夜間を想定した避難・消火・通報訓練をより実際に近い形で行っている。また、近隣住民の皆様にも訓練に参加いただき協力体制を築いている。また、風水害や地震を想定した訓練を実施し、自治体や同業者との協力体制の話し合いをしている。	消防署の立会いのもと、日中や夜間を想定した避難・消火・通報訓練をより実際に近い形で行っている。また、近隣住民の皆様にも訓練に参加いただき協力体制を築いている。また、風水害や地震を想定した訓練を実施し、自治体や同業者との協力体制の話し合いをしている。	消防計画に基づき、消防署、地域住民の指導や協力を得ながら、計画通りに実施されている。地形の特徴上、ハザードマップには含まれてはいないが、風水害でがけ崩れや、事業所が孤立することも想定されるので、行政や地域とも対策を練っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議では、常に日頃の介助方法や対応、言葉使いや声掛けの仕方について話し合い、利用者様の身になって接する様に心掛けている。今している事を常識と思わないで、よりその人の尊厳を損ねない対応を考えるようにしている。	会議では、常に日頃の介助方法や対応、言葉使いや声掛けの仕方について話し合い、利用者様の身になって接する様に心掛けている。今している事を常識と思わないで、よりその人の尊厳を損ねない対応を考えるようにしている。	支援にあたっては、利用者の尊厳、人権の尊重を最大の基盤にしている。代表者、管理者からも利用者を生身の先輩とした接し方をするようにと、繰り返し指導や助言が行われている。個人情報、秘密保持についても、契約書に基づき、きちんと管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様との会話の時間は大切に、特に傾聴することを心がけている。利用者が自己決定し易いような問いかけで自己決定を促し、決定されたことは尊重し、出来る限り希望に添った支援と利用者中心のケアを心がけている。	利用者様との会話の時間は大切に、特に傾聴することを心がけている。利用者が自己決定し易いような問いかけで自己決定を促し、決定されたことは尊重し、出来る限り希望に添った支援と利用者中心のケアを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決まった環境の中でも、利用者様が中心に支援させて頂く事を心がけ、自己決定を尊重し、その日の希望に柔軟に対応するように努めている。	決まった環境の中でも、利用者様が中心に支援させて頂く事を心がけ、自己決定を尊重し、その日の希望に柔軟に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人や家族に好みを聞き服を買ったり、訪問美容やお化粧品、ネイルなど、歳をとってもおしゃれが出来る喜びを支援している。また、季節の行事には着物を着付け参加して頂いたりしている。	本人や家族に好みを聞き服を買ったり、訪問美容やお化粧品、ネイルなど、歳をとってもおしゃれが出来る喜びを支援している。また、季節の行事には着物を着付け参加して頂いたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に合わせて、職員と一緒に野菜の下ごしらえや、後片付けなどを自然と手伝えるように支援している。また、職員が利用者と一緒に同じ物を食べ、利用者と一緒に楽しみながら食事をしている。また、利用者様からの要望で外食で回転寿司へ行ったり、お弁当を注文したりしている。	利用者の能力に合わせて、職員と一緒に野菜の下ごしらえや、後片付けなどを自然と手伝えるように支援している。また、職員が利用者と一緒に同じ物を食べ、利用者と一緒に楽しみながら食事をしている。また、利用者様からの要望で外食で回転寿司へ行ったり、お弁当を注文したりしている。	職員も一緒になって、温かく見守りながらの食事である。利用者の食器用エプロン使用もない。食後に食器を丁寧に拭いている利用者もあった。窓から見える畑や果樹園からの野菜や季節の果物が食卓に上ることも多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた、食事・水分量や食事形態、栄養状態など、主治医や看護師とも連携しながら毎日管理をしている。また、経口摂取による栄養確保に努め、状態によっては主治医による点滴での補給の支援も行っている。	一人ひとりの状態に合わせた、食事・水分量や食事形態、栄養状態など、主治医や看護師とも連携しながら毎日管理をしている。また、経口摂取による栄養確保に努め、状態によっては主治医による点滴での補給の支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に応じた介助と状態に合わせたブラシを使い分け、口腔内の清潔保持に努めている。また、必要に応じ歯科医師の往診による指導を受けたり、歯科衛生士による口腔ケアの勉強会を実施し、口腔ケアの大切さも重視している。	毎食後、個々の能力に応じた介助と状態に合わせたブラシを使い分け、口腔内の清潔保持に努めている。また、必要に応じ歯科医師の往診による指導を受けたり、歯科衛生士による口腔ケアの勉強会を実施し、口腔ケアの大切さも重視している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用い本人の排泄リズムを把握し、おむつを使用されている方でもトイレへ誘導し、動作の介助を行う事でトイレでの排泄が出来るように支援している。布パンツの方は出来るだけ継続し、おむつの方は布パンツへ戻すことで自立した排泄が出来るように支援している。	排泄チェック表を用い本人の排泄リズムを把握し、おむつを使用されている方でもトイレへ誘導し、動作の介助を行う事でトイレでの排泄が出来るように支援している。布パンツの方は出来るだけ継続し、おむつの方は布パンツへ戻すことで自立した排泄が出来るように支援している。	綿密な観察と排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄状況が把握されている。自然排泄に向けての工夫がなされている。おむつから布パンツへと改善された利用者もある。もし、排尿に失敗しても尊厳を十分に配慮した支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に食物繊維を取り入れたり、乳製品や水分摂取、散歩などで体を動かして、自然に排便ができるように支援している。また、主治医や看護師と連携し個々に応じた服薬の調整を行っている。	食事に食物繊維を取り入れたり、乳製品や水分摂取、散歩などで体を動かして、自然に排便ができるように支援している。また、主治医や看護師と連携し個々に応じた服薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	安全に配慮し昼間にはなるが、本人の体調や意思を確認し、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。毎日、両ユニットのどちらかで入浴が出来るようにしている。拒否される場合でも、日や時間を変更したり、言葉かけに工夫する等、無理強いをせず、個々に応じた支援をしている。	安全に配慮し昼間にはなるが、本人の体調や意思を確認し、一人ひとりがゆっくりと入浴を楽しめるように支援している。毎日、両ユニットのどちらかで入浴が出来るようにしている。拒否される場合でも、日や時間を変更したり、言葉かけに工夫する等、無理強いをせず、個々に応じた支援をしている。	一人ひとりの希望にそった入浴支援である。基本的には週2回の入浴日を設けているが、入浴の準備は毎日できている。希望や体調等によって入浴日が変更になることも多く、その都度臨機応変に対応している。足浴での対応もある。冬場は特にヒートショックにも気を付けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し、希望により昼寝や、休息の支援を行い、夜間は安心して眠れるように、言葉かけや空調・照明など環境に配慮している。薬を使用する場合は、主治医・看護師と相談し、注意を払いながら調整をしている。	一人ひとりの生活習慣を把握し、希望により昼寝や、休息の支援を行い、夜間は安心して眠れるように、言葉かけや空調・照明など環境に配慮している。薬を使用する場合は、主治医・看護師と相談し、注意を払いながら調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の情報は個人ごとにファイルし職員がいつでも確認できるようにしている。主治医や看護師・薬剤師と常に連携し本人の状態に適した服薬の調整を行っている。投薬の際には必ず二人で確認し誤薬の防止に努めている。	服薬の情報は個人ごとにファイルし職員がいつでも確認できるようにしている。主治医や看護師・薬剤師と常に連携し本人の状態に適した服薬の調整を行っている。投薬の際には必ず二人で確認し誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で、個々の能力に合わせた役割(野菜の皮むきや食器お膳拭き、洗濯物等)を持てるように支援している。また、趣向に合わせた、絵手紙教室や舞踊、大正琴演奏などのボランティアの受け入れや、ユニット間交流、散歩などの気分転換の支援もしている。	日常生活の中で、個々の能力に合わせた役割(野菜の皮むきや食器お膳拭き、洗濯物等)を持てるように支援している。また、趣向に合わせた、絵手紙教室や舞踊、大正琴演奏などのボランティアの受け入れや、ユニット間交流、散歩などの気分転換の支援もしている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日には、畑を散歩したり、希望に添って、買い物や外食、季節に応じた花見や紅葉狩りなどの外出を支援している。地域の行事のときは、場所の配慮などの協力をしてもらっている。また、家族の要望があれば、法事などの家族行事の際に職員が付き添うなどの支援も行っている。	気候の良い日には、畑を散歩したり、希望に添って、買い物や外食、季節に応じた花見や紅葉狩りなどの外出を支援している。地域の行事のときは、場所の配慮などの協力をしてもらっている。また、家族の要望があれば、法事などの家族行事の際に職員が付き添うなどの支援も行っている。	天気や本人の体調、希望などに応じて利用者主体の外出支援である。果樹園や畑の散策、近くの店での買い物、年間行事計画による花見や、紅葉狩り、ラベンダー見学、有田ならではの陶器市や焼きものの雑祭り見学も実現している。弁当を持っての外出支援や外食に出かけることもある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や能力に応じ少額のお金を所持される。外出時に職員が付き添って気に入ったものを購入されたり、パンやお菓子の移動販売に来られた時には自分で好きな物を選び購入される。	本人の希望や能力に応じ少額のお金を所持される。外出時に職員が付き添って気に入ったものを購入されたり、パンやお菓子の移動販売に来られた時には自分で好きな物を選び購入される。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	レクリエーションで作成した絵手紙や暑中見舞、年賀状を書かれている。本人の要望があれば家族に電話をかけたたり、携帯電話を所持され自由に電話されている。	レクリエーションで作成した絵手紙や暑中見舞、年賀状を書かれている。本人の要望があれば家族に電話をかけたたり、携帯電話を所持され自由に電話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、外の季節を感じられるよう窓を広く設け自然の光を多く取り入れた開放的な空間となっている。広い空間を設け好きな場所で自由に過ごせるように開放している。また、季節に合った手作りの飾りつけや、花を飾り生活の中に季節を感じられるように工夫している。	施設内は、外の季節を感じられるよう窓を広く設け自然の光を多く取り入れた開放的な空間となっている。広い空間を設け好きな場所で自由に過ごせるように開放している。また、季節に合った手作りの飾りつけや、花を飾り生活の中に季節を感じられるように工夫している。	自然光が差し込む居間は、広くて、明るく閑静でもある。広い窓から見える畑や果樹園は、季節を感じさせてくれる。居間に続くウッドデッキは利用価値も多い。畳の間は、横になったり、家族が泊まる場所にもなる。金魚も飼われている。空調もそれぞれの場所に応じて、適温に調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内は、ソファや和室があり、ソファでテレビを見られたり、疲れたら和室で休まれるようにしている。天気の良い日には、テラスへ出て歌を唄ったり、おやつを食べたりして頂いている。	ホール内は、ソファや和室があり、ソファでテレビを見られたり、疲れたら和室で休まれるようにしている。天気の良い日には、テラスへ出て歌を唄ったり、おやつを食べたりして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA(桜館) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(秋桜館) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ご せるような工夫をしている	本人やご家族様の好きなようにタンスやテレビを設置されたり家族写真を飾られている。行事の時に撮影した写真や誕生日のメッセージ色紙などを飾り、担当者が本人の個性に応じた楽しい居室作りを工夫している。	本人やご家族様の好きなようにタンスやテレビを設置されたり家族写真を飾られている。行事の時に撮影した写真や誕生日のメッセージ色紙などを飾り、担当者が本人の個性に応じた楽しい居室作りを工夫している。	各居室ともその方を思わせる、落ち着いて過ごせる場所になっている。好みや馴染の品が家族の協力を得て、その方らしい居室になっている。趣味の書道作品や、お気に入りの帽子や洋服がその方を連想させる。亡きご主人のご位牌に毎朝手を合わせている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や 「わかること」を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫して いる	個人の歩行状態も違う為、移動が 残存機能を活かして安全に出来る ように席の配置を考えている。居室 ではベッドの手摺をつけ転倒を防止 し安全に生活できるように支援して いる。	個人の歩行状態も違う為、移動が 残存機能を活かして安全に出来る ように席の配置を考えている。居室 ではベッドの手摺をつけ転倒を防止 し安全に生活できるように支援して いる。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない